

書評

Journal of Occupational Science(2018) 第25巻 4号

JOS25 巻4号は英語圏外の作業科学者の視点を掲載する。その内容はチリで開催された「第一回作業的公正と社会的インクルージョンシンポジウム(2016年)」の演者による7編の論文と、本号の特集「西洋のパラダイムを超えて」に投稿された3編である。Magalhaes(2018)から以上10編を紹介し、最後に評者のコメントを述べる。

最初の7編は、作業科学の根本的な概念が文脈の違いに関わらず有効で強力であると主張する。Apablaza(2018)は、チリの学校のインクルージョン対策を作業的不公正の視点から分析し、標準的でない子どもたちを周縁化と作業的隔離に導く欠損の存在を示した。Pizarroら(2018)は、チリ中南部の先住民の研究から、都市化政策が原因のアイデンティティーの葛藤と文化的不安に至る新しい作業的不公正として、作業的追放を提案した。Olivares-Aising(2018)は、現代の世界の現実に関する作業科学者の前提に疑問を投げかけた。Munoz(2018)は、作業的公正研究における語り手と組織のそれぞれがとったアクションの過程を探るために人権、多様性、社会的排除、市民参加のトピックを探求した。Whitefordら(2018)は、社会的不公正の多様なケースを考察するために2005年に発表された参加作業的公正フレームワーク(POJF)を再検討し、社会的変革をもたらす集合的協力の道具としてPOJFを再評価した。Carrasco(2018)は、現代チリで時に軽視される精神衛生のヘルスケア関係者の限界を解明するために、作業的分離から統治理論の概念を述べる。Yanez, Zuniga(2018)は、長期間の医療アプローチと障害者による作業的公正成就への影響を探るためにチリの法律を考慮する。

特集「西洋のパラダイムを超えて」の3編である。Pontesら(2018)は、子どもの養育環境が作業選択に影響するかを検討するため、小児活動カード(PACS)を使って、カナダとブラジルの8-9才児を評価した。ブラジルの子どもはより身辺ケア作業を、カナダの子どもたちは趣味やスポーツをより好むという文化的差異を見出すことによって、作業への文化的文脈の影響を考慮する重要性を示した。Chisman, Brooks(2018)は、東洋で始まり西洋に広まりつつある瞑想作業を探索した。個人的作業と見える瞑想作業は、実は集団的アイデンティティーの機会を発達させる機会となり、存在、所属、繋がり、縁につながることを見出した。非西洋の作業を研究することは、西洋パラダイムの外で発生した概念の理解を促すことを主張する。Huffら(2018)は、女性の作業についての暗黙の思い込みを再考するために、状況性、全体主義、集合性などの理論的レンズを使って捉え直すことによって、作業科学者に、社会的不公正に対する変革の触媒になるために、西洋パラダイムを超えるように挑戦するに訴える。

作業科学の中で、非西洋の価値や意味の理解が広まることをうれしく思う。東洋育ちの私は、西洋の思想を超えると言うより、お互いに価値や意味の共有を確認することから、豊かな世界規模の作業科学が展開すると考える。

小田原悦子

Magalhães,L., Nayar,S., Pizarro,E. & Stanley,M. (2018). Extending the paradigm: Occupation in diverse contexts. *Journal of Occupational Science*, 25 (4) 445-449.

Apablaza, M.(2018). Inclusion in education, occupational marginalization and apartheid: An analysis of Chilean education policies. *Journal of Occupational Science*, 25(4) 450-462.

Pizarro, E., Estrella,S., Figueroa, F., Helmke, F., Pontigo, F. & Whiteford, G. (2018). Understanding occupational justice from the concept of territory: A proposal for occupational science. *Journal of Occupational Science*, 25 (4) 463-473

Olivares-Aising, D. (2018). Occupational justice and human scale development: A theoretical integration approach. *Journal of Occupational Science*, 25 (4)474-485.

Muñoz,C. (2018). Challenges in occupational justice and social inclusion: Selected experiences within Valdivia's civil society. *Journal of Occupational Science*, 25(4) 486-496.

Whiteford, G., Jones, K., Rahal, C. & Suleman, A. (2018). The Participatory Occupational Justice Framework as a tool for change: Three contrasting case narratives. *Journal of Occupational Science*, 25(4) 497-508.

Carrasco, J.(2018). Political dimensions in the actions of health-care practitioners: Reflections for occupational science based on the Chilean psychiatric reform. *Journal of Occupational Science*,25(4)509-519.

Yañez, R. & Zúñiga, Y. (2018). The law and occupational justice: Inputs for the understanding of disability in Chile. *Journal of Occupational Science* , 25(4) 509-519

Pontes, T., Almeida, C., Polatajko, H. & Davis, J. (2018). Differences and similarities in the occupational repertoires of children from Brazil and Canada. *Journal of Occupational Science*, 25 (4) 530-541.

Chisman,E., & Brooks, R. (2018). The interplay between being and belonging through meditation: A grounded theory methods study. *Journal of Occupational Science*. 25(4), 542-553.

Huff,S., Rudman, D., Magalhães, L. & Lawson, E.(2018). 'Africana womanism': Implications for transformative scholarship in occupational science transformative. *Journal of Occupational Science*, 25(4) 554-565.

翻訳協力者

馬場博規(磐田立総合病院)

高木信也 (絃仁病院)

鹿田将隆 (常葉大学)

中村拓人 (神奈川県立保健福祉大学)

中野里佳(大阪発達総合療育センター)

西方浩一 (文京学院大学)

山根伸吾 (広島大学)

坂上真理 (札幌医科大学)

鴨藤菜奈子 (ぴあクリニック)